大田市立病院で新たな取り組み

島根大学医学部×大田市立病院

島根大学医学部と連携し市立病院に「大田総合医育成センター」を開設しました

医師不足と診療機能の低下

大田市立病院では、十年前の平成14年には34名の医師が診療に当たっていましたが、現在では22名まで減少し、整形外科、循環器科などでは、大学からの非常勤の医師等の派遣により診療を維持している状況です。

医師不足により診療機能が大幅に低下し、市内をはじめ県央の地域医療は厳しさを増しています。

大田総合医育成センター構想の始まり

大田市立病院

●医師不足
医師確保による診療機能の充実

島根大学医学部

●総合医育成
大学附属病院では難しい総合診療ができる現場の確保

思いの一致

注目される総合医

今、限られた診療環境の中で、診療科別に診療するスタイルの他に、幅広い診療能力を持つ医師が総合的に診療する総合医が、大きく注目を集めています。

大田総合医育成センタースタート

平成23年10月、島根大学医学部では、大田市からの寄付金を活用し、総合医を育成するための研究を行う「総合医療学講座」を大学内に開設し、大田市立病院内に、教育・研究・研修の実践の場として「大田総合医育成センター」を設置しました。

期待される診療体制の充実

現在、大学内に設置された「総合医療学講座」に、全体をコーディネートする石橋豊教授が赴任され、そして、「大田総合医育成センター」に野宗義博外科系教授がセンター長として勤務しています。

大田総合医育成センター勤務の教授は大田市立病院に常勤し、研修に来られる医師の指導のほか、外来での診療や入院されている患者さんの診療、手術も担っています。

センターは、まだ1名体制ですが、4月には、内科系教授1名、外科系准教授1名が新たに赴任予定で、スタッフも増え、一層、センターでの研修体制も、また、市立病院での診療体制も充実できると期待されています。

大学と自治体病院が連携し総合医を育てる取り組みは、全国的にも珍しく、大学の持つ専門性と市立病院が持つ幅広く診療ができる環境をうまく組み合わせ、総合医の育成のモデルケースとしたいと考えています。

また、市立病院では、センターで研修された医師が、引き続き、市立病院で勤務してもらえるような魅力ある病院づくりを進め、医師不足の解消につなげていきたいと考えています。

野宗義博センター長（診療室にて）

センター長からのメッセージ

センターの総括責任者である野宗センター長は、「センターの教官と大田市立病院の医師が診療科の垣根を外し、ひとつにまとまり、複数の診療科にまたがる医療チームの中で、多くの疾患を初期診療・診断から、高度治療まで、一貫して診療する体制を目指したい。」と抱負を語り、また、研修医や診療医師に対し「この新しいセンターで、我々と共に一緒に学び一緒に仕事をしましょう。」とセンターでの研修や勤務を呼びかけています。

『日米地域医療教育シンポジウム』が開催される

1月19日、大田総合医育成センターの開設記念として、「日米地域医療教育シンポジウム」が島根大学医学部と大田市の共催で、大田市の「あすてらす」を会場に開催され、約250名の市民が参加しました。

このシンポジウムは、大田総合医育成センターへの理解を深めてもらうことと、アメリカのワシントン大学で効果を上げている総合医育成方法を学び、センター運営の参考にすることを目的としたものです。

シンポジウムの中で、センターの生みの親である総合医療学講座の石橋教授が講演で、「4月からスタッフも充実し、本格的に始動する。総合医は大学だけでは育たないし、市立病院だけでも育たない。双方が互いに連携していくことが大切。また、地域に愛着が持てる住みよい環境づくりも大きな要素であり、市民の皆さんや行政のバックアップをお願いしたい。」と市民へのお協力を呼びかけました。

また、「これからセンターで育っていく総合医は、大田の財産であるとともに、島根県の医療を守る大きな財産になる。」と総合医育成の意義を強調しました。

今後、シンポジウムの議論も参考にし、大学と市立病院では、総合医を目指す研修医の受け皿づくりを進めることとしています。

講演する石橋教授

診療の充実！　研修医教育の充実！

大田市立病院
（大田総合医育成センター）

・総合医育成のため、学生や研修医の指導
・診療

～大学の医師が常駐～

連携

島根大学医学部
（総合医療学講座）

・総合医のプログラムの研究
・医療支援システムの研究
・予防医学の研究　など

お問い合わせ　病院事業プロジェクト推進室　☎0854-82-0330